

催吐リスク PTX(weekly)

前立腺 カバジタキセル25/d1/c21d+PSL10

薬剤名	投与経路	投与量	希釈液	点滴時間(分)	投与日(day)
クロルフェニラミンマレイン酸塩	注射	5	mg		1
ファモチジン	注射	20	mg		1
デキサメタゾン	注射	6.6	mg 生食	100 mL 30	1
ジェブタナ	25	mg/m <sup>2</sup>	生食	250 mL 60	1
				mL	
				mL	
				mL	
				mL	

内服薬

プレドニゾン 10mg 連日内服

投与基準等

II. 投与基準 (例:白血球 $\geq 2000/mm^3$ 、好中球 $\geq 1000/mm^3$ )

- Stage I-IV ドセタキセル 既治癒 例
- 18歳以上
- PS=0, 1, 2
- 好中球数 1500 以上
- 血小板 10 万以上
- クレアチニン $< 1.5 \times$ 施設上限
- 総ビリルビン 1.5 mg/dl 以下
- AST, ALT, ALP が施設上限 3 倍以下
- 血清アルブミン $> 3$
- 下痢 G2 以下

Ⅲ. 減量基準 (例:Grade3 以上の好中球減少時、次回より投与量を80%に減量)  
 G4の発熱性好中球減少  
 適切な治療にも関わらず持続する Grade3 以上の好中球減少症(1週間以上)  
 G2の末梢神経障害  
 次回より投与量を80%に減量

Ⅳ. 重大な副作用 (例:好中球減少 Grade3 以上37.5%)

●国内第Ⅰ相臨床試験

	全 Grade	Grade 3 以上
好中球減少症	100% (44/44例)	100% (44/44例)
発熱性好中球減少症	54.5% (24/44例)	54.5% (24/44例)
白血球減少症	4.5% (2/44例)	2.3% (1/44例)
貧血	29.5% (13/44例)	25.0% (11/44例)

●海外第Ⅲ相臨床試験

	全 Grade	Grade 3以上
好中球減少症	21.8% (81/371例)	21.3% (79/371例)
発熱性好中球減少症	7.5% (28/371例)	7.5% (28/371例)
貧血	8.4% (31/371例)	2.7% (10/371例)
白血球減少症	5.1% (19/371例)	3.8% (14/371例)
血小板減少症	5.1% (19/371例)	2.2% (8/371例)
リンパ球減少症	0.3% (1/371例)	0.3% (1/371例)

添付参考資料(文献・ガイドライン・治験計画書・研究計画書)